

## 【任期最後の一般質問】

～ 20年の町政に、感謝と未来への提案を ～

私にとって任期最後となる一般質問での登壇を終えました。  
この2期8年間、地域の声に真正面から向き合い、町の未来に全身全霊で取り組んできました。  
悔しい日も、誇らしい日も、そのすべてが「有田川町をより良くしたい」。その一心で積み重ねてきた日々です。  
議会で取り上げた一つひとつのテーマには、現場でがんばる方々の想いや課題があります。どれも「誰かの暮らし」を守り、前に進めるための大切な問いでした。  
皆さまのお声、想いを背負いながら議場に立ち続けた8年間は、私にとってかけがえのない経験となりました。  
そして、合併から20年間、まちの舵取りを担ってこられた中山町長。異なる地域を一つにまとめ、町民の暮らしを第一に判断し続けてこられた、その20年の重みに議場で心から敬意と感謝を申し上げました。



有田川町議会議員（無所属）

発行：2025年12月

# 椿原 竜二

「町政報告Vol.7」をお届けいたします！

このチラシはデザインから業者に任せず「魂を込めて」  
全て自分で作成し、お届けさせていただいております。

## 任期(4年間)最後の定例会が閉会しました！

～ 普通の人々が挑戦できる、本当の責任を果たせる議会とは ～

本定例会で議員報酬を3万円増額(23万円→26万円)する議案が上程 ⇒ 結果、賛成：3人 反対：9人で否決に。

まず率直に、選挙前ということもあり、賛成には非常に大きな覚悟を必要としました。反対しておけば批判されない。よく見える。その“安全な道”があったのも事実です。しかし私は「しっかりと働く議会であるため」に賛成の選択を行いました。どう見られるかで判断する政治は、未来への責任放棄だと考えています。

- 議員定数削減によって町の財政負担を増やすことなく実施できること
  - 金額を決めたのは議員ではなく、民間の有識者を含む報酬審議会であること
  - 改正の適用は2026年4月からであり、現職議員自身の報酬には関係しないこと
- つまり、これは“今いる議員のため”ではなく、次にこの議会へ挑む人のための環境整備です。これらの理由から、私は「批判を覚悟してでも、まちの未来のため」に賛成の判断をしました。

「自分たちの報酬を上げるなんてどうなのか」という声があることは理解しています。

私自身、現在の金額23万円に不満はありません。

自営業という別の収入があるから、なんとか成り立っている。それも現実です。

しかし、別の収入がある人しか議員になれない仕組みを、このまま続けていいのでしょうか。

若い世代、子育て世代、会社勤めの人、地域で働く普通の人。

こうした“まちの当事者”が挑戦できない議会は、本当にまちのためになるでしょうか。

生活が成り立たないまま「覚悟だけ」を求める議会では、誰も挑戦できず、議員の成り手不足は深刻化するばかりです。

議会が弱れば、確実に地方自治の根幹である「二元代表制」そのものが揺らぎ、町長との対等性が保てなくなります。

もちろん、3万円上がったところで成り手不足が劇的に解消されるとは思っていません。

そして「何もしなくても同じ報酬でいいのか」という疑問があることも承知しています。

ですが、議員に審判を下すのは住民の皆さまです。議員は常に評価を受け、結果で応えなければなりません。

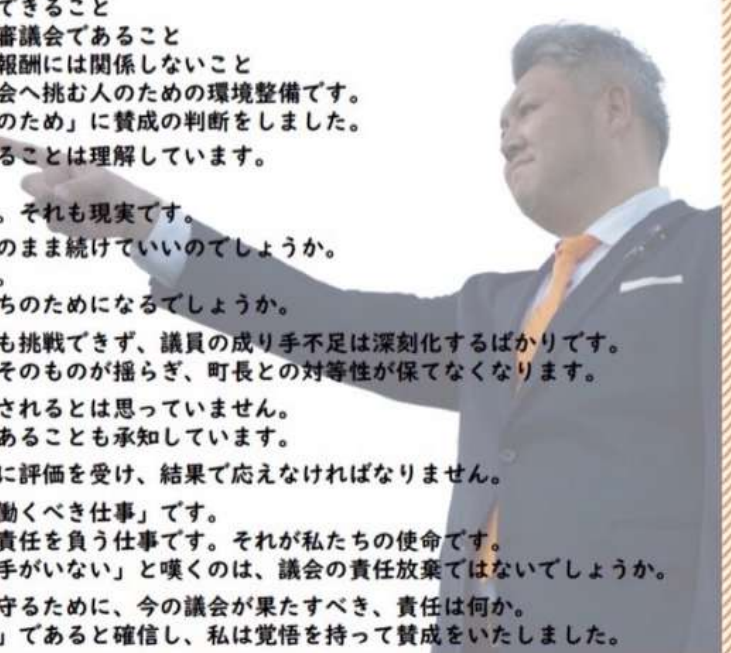
「議員は片手間でやる仕事ではない」「覚悟と責任をもって働くべき仕事」です。

議員は、地域の声を聞き、政策をつくり、議論し、決断し、責任を負う仕事です。それが私たちの使命です。

その使命に見合う環境すら整えず「若い人が来ない」「成り手がいない」と嘆くのは、議会の責任放棄ではないでしょうか。

未来の議会に、未来の挑戦者が立てる場所へ。未来の議会を守るために、今の議会が果たすべき、責任は何か。

見合う環境をつくることこそ、町の未来を守る「本当の責任」であると確信し、私は覚悟を持って賛成をいたしました。



# 一度も休むことなく、立ち続けてきた一般質問

議会開催月	一般質問項目	かわら版	
令和4年	3月 パートナーシップ制度について 男性の育児休業について PC・タブレットの活用について	65号	
	6月 学童保育について 保育所のおむつについて 第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について	66号	
	9月 救急業務について 地域の特性を活かした産業活性化に向けて	67号	
	12月 御堂学童保育について 令和5年度予算編成について	68号	
	令和5年	3月 エネルギー・食料品などの物価高騰について パートナーシップ制度について 保育所の使用済み紙おむつについて	69号
		6月 台風2号などの影響による線状降水帯の被害について 疾病患者への支援について クビアカツヤカミキリの被害対策について	70号
9月 待機児童について 「絵本のまち有田川」について 大阪・関西万博について		71号	
12月 医療・介護サービスの充実について 令和6年度予算編成について		72号	
令和6年		3月 能登半島地震を踏まえた本町の対策は 学校給食無償化の考えは	73号
		6月 中学校部活動の地域移行について 公共施設の太陽光発電導入について	74号
	9月 道の駅について ポッポみちの活用について	75号	
	12月 「帰って来たい」まちづくり 「ワカヤマソウリュウ」の活用 「子育てしやすい」まちづくり	76号	
	令和7年	3月 今年度(令和6年度)否決となった議案の経緯と今後は 通学路の安全確保について	77号
		6月 明患上人の魅力を活かしたまちづくりについて ワカヤマソウリュウの拠点整備について	78号
9月 熱中症対策について 世界農業遺産認定の活用と今後の展望は		79号	
11月 合併20年の総括について		80号	

## 熱く、まっすぐ。

～議会で問い続けた、まちへの想いや提案～

この町政報告チラシは、私が議員として歩んできた軌跡そのものです。  
このまちを、子どもたちに『誇れるまちにしたい』。その一心で、一度も休むことなく一般質問に立ち続けてきました。子育て、教育、防災、医療、福祉、産業振興、そして地域の未来。どれも「誰かの暮らし」に直結する大切なテーマであり、背中を押してくれたのは、日々いただく町民の皆さまのお声でした。

待機児童、学童保育、紙おむつの問題、男性育児、ICT教育、学校給食、部活動の地域移行。  
一つひとつの提案には、現場の苦勞があり、悩む親御さんの想いがあり、子どもたちの笑顔を守りたいという願いがありました。

災害対策、救急医療、物価高騰への対応、エネルギーの問題。安心して暮らせるまちをどうつくるのか。“もし自分の家族だったら”と置き換えながら、問い続けてきました。

さらに、世界農業遺産、ワカヤマソウリュウ、万博、地域の観光資源。  
このまちの魅力をもっと伸ばし「帰って来たい」と思える誇りあるまちにするため、挑戦を重ねてきました。

議会での発言は、単なる質問ではありません。  
「まちの未来を諦めない」という宣言であり「ここで暮らす人の想いを必ず届ける」という約束です。  
私はこれからも、現場に足を運び、声を聞き、課題と逃げずに向き合っていきます。

有田川町を、次の世代が胸を張れるまちにするために。  
そして「この町に生まれてよかった」「また帰って来たい」と思える未来を、皆さんと一緒になって必ずつくっていきます。  
本町政報告チラシが、その歩みと覚悟を感じていただけるものとなれば幸いです。

最後になりますが、日頃より温かく支えてくださる町民の皆さまに、心より感謝申し上げます。  
皆さまの声が、私を議会へと向かわせ、まちの未来を問い続ける力になっています。  
引き続き、変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

### ～ 合併20年の総括は ～

町長は、合併から20年間の成果として、下水道整備の推進、藤並駅の利便性・安全性向上、有田みかんやぶどう山椒の品質向上・販路拡大など、基盤整備と産業振興を挙げています。  
子育て・教育では、教育最先端化1000日プロジェクトを軸に、藤並・金屋第三こども園の建て替え、きび森・金屋第一こども園の新築、田殿小・吉備中の校舎更新やLED化、学童保育の整備など、安全で質の高い環境づくりを進めてきました。  
合併特例債は、藤並駅駅舎、ALEC、吉備中学校、こども園、消防庁舎、町道整備など、多くの公共施設に活用され、発行総額は139億円超となる見込みです。町の発展に寄与したと評価しています。  
財政は、基金残高約135億円と安定しており、主要財政指標も健全。財政調整基金約40億円を維持しつつ、公共施設整備基金には年間3億円の一般財源が必要と見込まれています。

これまでの町政報告チラシ



今度が「Vol.7」となりました。ご連絡いただければバックナンバーもお届けいたします。

### PROFILE

有田川町議会議員選挙に初当選（2018年1月・28歳）  
〒643-0152 和歌山県有田郡有田川町金屋2-1-8  
携帯：080-5333-3669 TEL/FAX：32-3669  
E-mail：tsubaki\_ryuji@hera.eonet.ne.jp

日々の活動はSNSをご覧ください

検索  いいね!

「樫原竜二」と検索していただければOK!

